

「サミット同道の旅」

菅田一郎 (RSK)

サミットに協賛した訳でもないが、富良野の花のピークと湯宿の週末泊を避けたらたまさかサミットと日程が重なった。七月六日から十四日までの八泊、愚妻同伴の旅である。

今回は岡山から千歳まで飛んで道内はレンタカーで道央を中心に廻る旅程を組んだ。

千歳からハンドルを西に切り、洞爺湖↓大沼公園↓ニセコ↓小樽↓美瑛↓富良野↓支笏湖が主なルートである。レンタカー代は六万二千元也スズキスイフト。

小学生の夏休み絵日記よりおつる陳腐な国内旅行記しばしご辛抱を。

七月六日(日) 晴れ

岡山空港十一時五十分発の全日空機は順調に千歳空港を目指した。二時間弱のフライトである。ところが千歳上空で着陸の気配がない。やがて機内アナウンス「サミットの関係で着陸許可が今のところ出ていません。いつ出るかは分かりません」機は同じ景色を何度も見せてくれる。三十五分の空中待機でやっと滑走路に脚を降ろした。

航空運賃は旅割りで@二万四千三百円也、千歳上空遊覧のおまけつきなんちゃって。

一転、空港は厳戒態勢、三〜四人の警官が横一列で歩きながら視線鋭く警ら中、空にはヘリがぶんぶん。

初日の宿は、洞爺湖手前の北湯沢温泉・御宿かわせみ、ネットのロコミランキングで上位を占める宿。先代が投げ出したのを引き受けたのか、昨年から経営者が若い夫婦に代わっていた。料理や対応は一生懸命やっていて、好感がもてるが、なにせ建物が古く、部屋は静かに歩いても床がぎしぎし揺れる始末。露天風呂への通路は建築廃材を組み立てたような驚く佇まい。なにやら飯場と間違えそう。

宿代@八千五百円で第一夜は更けて行った。

七月七日(月) 雨

本土が梅雨でも北海道は晴れと思っていたが当て外れ。何かありそうな洞爺湖を目指す。

道路はいたるところに警察官が。各県から二万人が動員されているとか。日本にこんな警察官がいたのかと驚く。昭和新山も霧の中、道に迷って広島県警の検問に引っかかる。行き先を尋ねたくても当方以上に知らない。サミットのホテル方面の道路は通行止め。要人はへりで千歳空港からホテルまで運んでいたのが、この日は悪天候で高速道路になった。おかげで千歳→洞爺湖間は通行止め、直前に走ったがパトカーばかり、道路のり面の草むらにまで警官が潜んでいる。ホントにご苦労さん。洞爺湖での時間のロスが馬鹿馬鹿しくなり一路大沼公園へ、ここだけ雨がやんで静かな湖畔を散策した。少し北に戻って期待の湯宿・銀婚湯に入った。温泉好きな人には一度は泊まりたい有名な宿である。お風呂、食事、部屋、従業員の対応すべて合格点だった。@一万五千円弱の宿代が安く感じた。

七月八日(火)曇り

銀婚湯は広大な敷地を持ち、木立の中に五箇所の貸切り露天風呂が散在している。宿から歩いて十分以上かかるがそれだけの価値がある。源泉が一番濃いと「トチニの湯」に朝五時半ごろ出かけた。大木をくりぬいた湯船に掛け流しの湯が溢れていた。

若いカップルだとどんなに余技が楽しいだろうと邪念が襲つ。老夫婦だと木棺に入っているのではと要らぬ思いがよぎる。でも極楽極楽。

宿の女将と次の宿の話をしていたら、その女将とは大変懇意ですごい美人だとのこと。

「では女将さんと同じですね」とまるで飲み屋でも口にしない歯の浮くようなお世辞を言つと、豊満な体を揺すってクッククックと喉を鳴らして笑った。ウインタースポーツのメッカ「ニセ」は夏行くとまったくとらえどころが無い。道の駅で時間をつぶし、早めに湯宿・新見本館には入った。

噂の美人女将が優しく出迎えてくれた。歳は争えないが確かに昔美人。そばに腰を抜かすほどの美女が、こんな山奥に何故と我が身を疑うほどの美貌。スラッとした長身を薄いベージュの涼しげな着物に包んだ姿は宿には不似合いなほど。女将さんの娘さんで若女将だった。

女将さんは若い頃札幌三越の案内ガールをしていてリュウマチを患いこの宿に母と湯治にやってきた。病気は完治したが宿の主人と治らぬ恋の病に落ち結ばれたという。

宿代@一万二千円也、お湯良し目の保養付。

七月九日(水)曇り

丁重な見送りをしてくれた主人も顔立ちが整った人だった。宿をたつとき若女将の写真を撮ろうと思っていたがついに姿を見せることはなかった。幼い

子供の通学の世話をしていたのかもしれない。帳場の奥に子供の声がしていた。

宿の近くの神仙沼を歩いた。人の手に汚されていない原生林の奥に小さな沼が静かに眠っていた。一時間の快適な散策だった。

風ごころニツカウ井スキー余市蒸留所を見学した。千九百三十四年に竹鶴政孝によって建設されたところで今も現役である。一般の見学を受け付けており三十分おきに可愛いお嬢さんが案内してくれる。五、六人の観光客と一緒に約一時間案内してもらった。

怪しげな観光地で時間を費やすより余程ましである。帰り際案内してくれたチャーミングなガイドさんが話しかけてきたのでかみさんと並んで写真を撮らせてもらった。あとから写真を見ると彼女は普通のお嬢さんだった。レンズはシビアである。

小樽は何度か行ったことがある。運河とガラス細工の店めぐりくらいで言われているほどのときめきはない。場所柄すし屋がやたら多い。観光客向けに結構な値段の店が少なくない。事前に北海道放送の人にお勧めの店を聞いていった。街の中心部なのだがやや分りにくいはずれに店があった。予約して早めに入ったのでガラガラだったがやがて次から次へと客がきて満員になった。地元の人が多い。寿司も刺身もポリウム満点。安くて旨かった。カウターの隣に似たもの夫婦がつまんでいた。女性のほうがにがり酒の瓶をかたむけていたので「それ美味しいですか?」と声をかけたら一杯どうぞと話が弾み、グラスに手をかざして「もう結構です」との仕草を見ると、まだ欲しがっている目を見破られてもう一杯。何杯かご馳走になってしまった。五月末に舞鶴からフェリーで小樽に入り北海道を廻ってあす帰るといふ愛媛のカップルだった。店の名は魚真(うおまこと)。

小樽の宿はヒルトン小樽。海の見える部屋で@一万七千五百円也朝食付。高いね。

余談だがチェックインの時山形県警の隊員が大勢やってきた。サミット警備のためだがこんな高級ホテルにと一瞬驚いたが、大勢の警官の宿泊場所に受け入れ側の道警は苦労した話も聞いた。彼らの制服やパンツは誰が洗濯しているのだろうかと要らぬ心配までしてしまった。

七月十日(木)曇り

小樽から旭川まで高速を飛ばした。途中は平凡な風景である。昼過ぎ美瑛に着いた。なだらかな丘にジャガイモや麦のまだら模様が美しい。畑の中にポプラがそびえ「ケンとメリーの木」「セブンスターの木」とか名付けて人だけが皆カメラを向けている。

昔コマーシャルに出た風景を観光スポットにしているなかなかやるなあと感じ

心する。

今夜の宿はオーベルエルミタージユ。ハイグレイドペンションと違って良い。六部屋満室が続く。テレビは置かず俗世間から隔離される。夜八時から本格フランス料理が振舞われ、それぞれにウエイターのうんちくがつく。ワインを舐めて食事が終わったのは十時だった。

窓の外の畑の緑が静かに夕闇に溶け込んでやがて暗闇に消え行くのは一幅の名画である。

この女主人は一年目という。スタッフに外国の学生などが研修を兼ねてきていた。

北海道の宿は夏場だけで冬は厳しい。持ち主もころころ替わっているみたいだ。

宿代@一万七千五百円也美瑛の絶景付。

七月十一日(金)雨

朝から本降り、雨の富良野はつまらない。車で東に五十分、大雪山系に十勝岳温泉凌雲閣がある。道内で最も高い所(1280m)にある雲上の温泉宿。酸性硫酸塩泉とカルシウム・ナトリウム硫酸塩泉の二つの源泉を持ち珍しくラドンを含んでいる。茶色の湯はいかにも濃いと思わせる。ここで日帰り湯、@八百円也。かみさんの話だと女性風呂の先客は九十間じかの常連の老女と台湾からきた若い女性の二人で台湾の彼女は水着を着ていたので驚いたとか。

午後、富良野最大のビューポイント・ファーム富田に行く。ここは別世界、広い駐車場に観光バスや乗用車が満車。ここだけ雨がやみゆっくり見て一時間ぐらいかかった。ラベンダーを中心にさまざまな花が手入れよく植えられており、虹模様のおなじみの風景は写欲をそそる。ラベンダーから香水や石鹸を作る工程も珍しい。道内どの観光地でも中国語が飛び交う。台湾や中国からの客がいかに多いか実感させられる。ここは特段賑やかで、雀のお宿に飛び込んだかしましさ。飛び切りの美人やかっぱくの良い人々は日本人よりの勢いがある。急にお金持ちになって風貌がまだ追いついていない方も散見される。人のことは言えないが。早めに富良野のペンション・あしたやに。若夫婦が神戸から移住して十年、この宿を初めて四年という。五部屋満室で清潔、食事も一生懸命やっているのが伝わって心地よい。同宿の家族と話はずむのもペンションの楽しみである。

宿代@八千円也、隣室は若いカップル。富良野の夜は何事もなく静かにふけていった。

七月十二日(土)曇

富良野で宿の主人に聞いた行列の出来るスイーツの店・菓子工房フランデリ
スに立ち寄った。十時開店で十分前に行って行列の最前列で待った。高齢者
ミーハーで自分でも恥ずかしい。後にはすでに数十人の人垣が続いていた。
牛乳瓶入りプリンが超有名で一個二百八十円。プリンスホテル経営のニング
ルテラスを廻って、高速で千歳湖畔の休暇村支笏湖に入った。北海道で唯一
の休暇村に連泊である。どこに行っても休暇村はその地方の最も優れたロケ
ーションにある。さすが国の設備である。ここも支笏湖畔の原生林の中にあ
り他の建物はまったく見えない。道内の味覚たっぷり夕食、とりわけ大き
目のどんぶりにご飯を少なめに入れ、その上に寿司ネタ状の数種類の魚を乗
せての丼には結構はまってしまった。蒸かしたジャガイモにイカの塩辛をつ
けたら美味しいとのウエイトレスのアドバイスには脱帽。
宿代@九千八百五十円也。民放健保の補助が適用可。

七月十三日(日) 快晴

この日初めての快晴。初日、悪天候とおまわりさんに阻まれた洞爺湖に再チ
ヤレンジした。

有珠山ロープウェイから見る昭和新山はまるで地球のオデキ。昭和十八年か
ら二十年まで生成活動は続いた。サミットのニュースで見慣れた風景ではあ
るが、この日は洞爺湖、中島もばっちり。少し離れた有珠山西山火口散策路
に廻った。二千年噴火の生きたドキュメントに圧倒される。熱泥流や隆起に
襲われたアパート、憩いの家、菓子工場、一般住宅がそのまま残され、生で
見る大自然の驚異、人間生活と地殻変動の生々しい鼓動が聞こえる。
サミットの喧騒も嘘のような洞爺湖を後に帰路についた。
レンタカーの走行距離千二百七十八キロ。
翌日、千歳から岡山空港へ、岡山の蒸し暑さが身にしみた。



平成二十年七月寄稿

写真集は下記をクリックしてご覧下さい。

http://www.geocities.jp/mink_okayama/kandaphoto0807.html